

そ ら 宇 宙



子どもたちの未来をつくる日本語指導

杉並区立済美教育センター 指導主事 松田 朋



【教育委員より賞状を受け取りました。】

令和4年11月19日（土）、杉並区役所会議室にて「国際交流の集い」が行われました。外国人児童・生徒及び帰国児童・生徒の学習の成果を発表するとともに、児童・生徒の自信と学習意欲の継続につなげることを重点に実施しています。今年度は、小学生8名、中学生8名が発表しました。好きな食べ物、好きなこと、読んだ本の紹介や外国での生活のこと、日本と外国を比べて感じたこと、日本の学校生活や勉強したこと、日本に来て思ったことやよかったことなどについて、真剣に、ときにユーモアを交えながら、日常の生活や学校生活、日本語指導で身に付けた日本語を用いて伝えました。多文化に触れたからこそ感じた疑問や面白さ、そして日本で生活すること、関わり合いをもつこと、日本語を学ぶことの大変さを素直な思いで話してく

れました。どの子どもたちの発表からも、自己実現を図るために明確な目標や志をもち、人一倍の努力を重ねたことが伝わってくるのと同時に、感謝の言葉がたくさん出てきたことに大変温かい気持ちになりました。家族、友達、先生方の優しさや支えに感謝する心は、国や言葉を超えて人と人が結びつく大切なメッセージです。スピーチの後には、会場に集まった60名以上のスピーチをした仲間・家族・日本語指導講師・学校関係者等から大きな拍手に包まれました。それもまた、人の優しさ、温かさに触れる素敵な時間になったのではないのでしょうか。日本語指導や「国際交流の集い」が、こうした心を育む一端を担っていることを強く感じるとともに、開催に当たり、各校の校長・副校長、担任の他、御指導に当たられた先生方には格別な御配慮と御支援を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。



【スライドで、発表者の学習の様子を観ました。】

さて、今後も日本語指導の希望が増加することが予想される一方、指導者が足りていないことと、訪問指導、補充指導（120単位時間）終了後も、学校生活に適應できる日本語の習得が不十分な児童・生徒が多くいるということは大きな課題となっています。これらの課題への一手として、杉並区交流協会と協力し、「子ども日本語教室」が小学生を対象に1月25日（水）から始まりました（中学生は4月以降を予定）。養成講座を終えた28名のボランティアが子どもたちの指導にあたっています。第1回目は、子どもたちとの関係づくりとして、お正月遊び、自己紹介でお互いの緊張をほぐした後に学習の時間をもちました。ボランティアは、集中して学習している際には見守り、終わったときにはたくさん褒め、苦手な字に取り組むときには丁寧に根気よく、それぞれの子どもたちの学習状況を把握していきました。帰りの会では、子どもたち、ボランティア、保護者の皆様にも笑顔があふれ、次回以降への意欲につながりました。



【学習で集中しているところを見守ります。】

こうした新たな挑戦と一つ一つの積み重ねを多くの方々に知っていただき、子どもたちの未来をつかっていく日本語指導を進めて参ります。



日本語を話す楽しさ

杉並区立杉並第七小学校 教諭 井関奈々

Aさんは1年生の3学期から本校に通っています。私は、Aさんが2年生になる4月から担任をすることになりました。言葉だけでなく日本の学校での過ごし方についても、定着していないことがたくさんあり、2年生から日本語指導をお願いしました。道具箱や筆箱の中身の話から、学校のルールなど丁寧に御指導をいただき、今ではとても活発に学校生活を送ることができています。学級では、個別指導が十分にできないことも多くあるので、日本語指導で個別に丁寧に見ていただく時間があることにとても感謝しています。

学習では、特に文字の学習に意欲的で、お手本の字形を見ながら練習することを楽しそうに取り組んでいます。授業中は難しくて分からなくなると参加を諦めてお絵かきを始めてしまうこともあります。九九の学習では、日本語で九九を唱えることに苦勞していました。しかし、吸収する力の高いAさんは、音声で九九の唱え方を聞いて真似する方法が合うことが分ると、どんどん学習を進めていきました。

「国際交流の集い」では、日本語指導の先生に助けていただいて、日本の小学校生活についてのスピーチを作成し、発表しました。本番の前には、校長先生やクラスの友達の前でも発表の練習をする機会を作りました。縦書きの文章を読むことは、Aさんにとっては簡単なことではありませんでしたが、時々止まりながらも最後まで読み上げることができました。スピーチ後は、たくさんの児童がAさんに感想と応援の言葉を伝え、温かい関わり合いが見られました。Aさんの一生懸命さがクラスの児童にも伝わり、最後まで真剣にスピーチを聞く姿が見られたこともとても嬉しく思いました。

Aさんとの日本語でのコミュニケーションは、まだ通じ合うことが難しいときもあります。友達に誤解を与えてしまうこともありますが、今は担任や支援員が間に入って言葉を足しながら支援をしています。しかし、クラスの友達や担任に日本語で話しかけ、会話を楽しもうとする様子もあります。今後も、Aさんが「伝えたい」「もっと友達と話したい」と思えることを大切に、日本語を話すことを楽しめるよう、担任としてサポートを続けていきたいと思います。



たくさんの支えに感謝

杉並区立永福小学校 教諭 伊藤 正憲

「おはようございます。元気です。」

これは、毎朝Bさんが発する挨拶の言葉です。今でこそ、様々な単語を覚え、友達とのコミュニケーションも上達してきたBさんですが、ここまで成長してこられたのは、「たくさんの支え」があってこそです。

Bさんは、2年生の2学期から転入してきました。生まれてからこれまでずっとフィリピンで生活していたこともあり、当然ですが、9月頃、日本語の理解および会話でのやり取りは全くできない状況でした。教室で一斉指導を行いながら個別指導を行おうとするもの思うようにいかず、私は、Bさんをどのように学校生活や学習活動に参加させていけばよいのか悩む日々でした。しかしながら、クラスの児童が英語で話し掛けてくれたり、外遊びに連れて行ってくれたりしている時間だけは、Bさんの明るい笑顔がたくさん見られ、ほっとする瞬間でした。友達との関わりの中で、Bさんの不安感や疎外感も少しずつ無くなっていったようでした。

そのような中で、日本語指導が始まり、Bさんは驚くほどいきいきと過ごすようになりました。日本語指導では、文字指導は勿論ですが、ゲーム的な活動を取り入れたり日常的な会話表現から学習に繋がったりなど、様々な工夫をしてくださっていました。そのおかげもあり、Bさんは、日本語の学習に対して苦手意識をもつことなく、とても前向きに取り組むことができています。日本語指導は週2回なのですが、「次はいつですか?」「今日はありますか?」などと聞いてきて、心待ちにしているようです。

また、自信をもてたことで、他の学習にも前向きに取り組めるようになっていきます。「Bさん、頑張っているすごいね。」「Bさん、こんなに書けてるよ!」「Bさんが〇〇って日本語で話してくれたよ。」などと、クラス内で他の児童からたくさん賞賛の言葉をもらっていました。私自身もたくさん褒めることができました。これらは全てBさんが着実に努力を重ね、大きく成長してきた証です。ここ最近は、本当に笑顔が増えてきています。

このように、Bさんの成長が見られ、クラスの中でも笑顔が増えてきているのは、本人の努力に加えて日本語指導の大きな支えがあってこそだと実感しています。担任の私の悩みや思いにも共感し、それらを指導

に生かしてくださったことも心から感謝しています。今後も、Bさんの笑顔が増えていくよう、私自身も「支え」となっていきます。



自信をもって

杉並区立天沼中学校 主任教諭 松本 安純

学級には日本語指導をしていただいている生徒が2名います。一人は、小学校5年生の3学期にネパールから日本にやってきたCさん。Cさんはネパールでしっかりと英語教育を受けていて英語での意思疎通が十分に可能でした。もう一人のDさんは今年度4月からタイから本校に編入し少し英語でのやりとりができます。そのため、二人は英語で質問し、教員やクラスメイトも始めから英語を用いて説明することが習慣化していきました。Cさん、Dさんが学校で日本語を使用する機会は増えませんでした。また、そのためかクラスメイトとの仲が思うように深まらなかったのです。

このままでは良くないと考え、二人に日本語を使う機会を増やすことを提案し、保護者の方にも日本語を使いながら身につけていく重要性を伝えました。私自身も二人ともよく努力し、英語に日本語を混ぜながら会話していくようになりました。するとクラスメイトたちも、二人がこんなに日本語がわかっているのだ、と気づき始めました。

その流れが一気に加速するきっかけとなったのが「国際交流の集い」でのスピーチでした。スピーチの原稿は日本語指導の先生にご指導いただき、本番に向けてよく練習も重ねていました。本番前の練習としてクラスメイトの前でスピーチしたのですが、とても素晴らしく生徒たちも感銘を受けたようでした。これをきっかけにクラスメイトと日本語で会話する機会が増えていきました。

この後、全校生徒の前での発表も予定しています。日頃からのご指導に加え、スピーチの機会をくださったこと、また原稿作成や練習の御指導をしてくださったことがCさん、Dさんの自信となり、大きな前進につながりました。Cさん、Dさんが学級の一員としてクラスメイトたちと関係を育みながら日本での中学校生活を楽しんで過ごせるように、また、充実した学習ができるように、担任として支援していきたいと思えます。

日本語指導を受けて



杉並区立向陽中学校 教諭 荒幡智佳

Eさんは昨年1月に中国から来日し、4月に本校に入学してきました。初めは日本語を話すことも、聞くことも難しく、意思の疎通は簡単な英語や絵を使って行いました。同じ学級の生徒たちは、どうにかしてEさんと話をしようと、ネットで「ありがとう」や「すみません」などの中国語のあいさつを調べてきたり、「こっちにきてください」などの簡単な会話文を調べて紙にまとめたりしてくれました。それでもなかなかお互いに伝えたいことが通じず、もどかしい日が続きました。

1学期の途中から週2回の日本語指導が始まりました。日本語指導の先生とはとても相性がよかったようで、Eさんは日本語指導の先生との時間を毎回楽しみにしているようでした。日本語指導を終えた後に先生が毎回渡してくださる学習ファイルには、Eさんが丁寧にひらがなの練習をした跡が残されていました。夏休みにも、着実に日本語が上達していく様子が見て取れました。

2学期には、合唱祭や校外学習など、生徒同士で協力しなければならない行事がいくつもありました。Eさんも毎日一生懸命合唱を練習し、本番では学級で一丸となって美しい歌声をホールに響かせることができました。また合唱は学年での優勝を果たし、賞状とトロフィーを持ち帰ることもできました。

担任としてこれまでEさんを見ていて特に素晴らしいと感じたのは、Eさんはうまく言葉が通じ合えない時でさえ、周りの人と仲良くなろうと努力していたことです。明日の授業の持ち物を友達とよく確認してノートに書き写したり、友達と数学の問題を一緒に解いたりしていました。また部活動にも所属し、他のクラスの友達もいつの間にかできていました。日本語が上達することで、さらに色々な友達とたくさん話することができるようになりました。自分の世界をどんどん広げていくEさんの成長を見て、私もとてもうれしく思います。

毎回楽しい時間を作ってください、生徒の気持ちに寄り添ってくださる日本語指導の先生、またこの日本語指導を受けるために御尽力くださった多くの方々に厚く御礼申し上げます。



日本語指導が自信を与えてくれた

杉並区立大宮中学校 教諭 宮本奎介

Fさんは、令和4年の11月に来日、同年4月に本校に入学してきました。同じ小学校から入学する生徒は一人しかいませんでした。そのため今までに経験したことのない不安や緊張、様々な感情を胸に抱えながら、入学式を迎えたことだと思います。呼名され、返事をして、立ち上がる瞬間は、本当に緊張したことでしょう。初めて会話をしたのは、入学式後のことです。新1年生の名簿に記載されている学年だよりをもらっていない、ということをやんわりと身振り手振りで伝えようとしていました。

「休み時間にトイレに行ってもよいか」と聞かれたときには、本当に申し訳なさを痛感しました。それからは、声を掛け続けることが、彼女の不安や戸惑いを取り除くことにつながると思い、避難訓練や全校朝礼、実技教科は教室移動があることなど、必ずFさんに伝えるようにしてきました。Fさんは、自分から「分からない」と伝えられるので、我々からしてもとても助かりました。

校内委員会の場ではFさんのことを共通理解し、定期考査では問題用紙にふりがなをつけることも共通確認をしました。そのような状況の中で、週2時間の日本語指導が始まりました。ひらがなやカタカナ、漢字などの御指導はもちろん、「東京の学校生活（東京都教育委員会）」のDVDも見せていただきました。Fさんもとても意欲的に授業を楽しんでおり、そのため理解も早く、着々と日本語が身に付いているのが実感できました。「国際交流の集い」でスピーチをすることになった際には、原稿と一緒に考えてくださり、読む練習までもしてくださいました。「本番はとても緊張したけど、うまくできた」と、後日伝えてくれました。Fさんにとって、大きな自信につながったと思います。

2学期には、リズム感が優れていることから、音楽発表会の指揮者に推薦されました。Fさんの国では、音楽の授業はないという話を聞いていましたが、最後には自分から「やってみたい」と言ってくれました。決まるや否や、昼休みや放課後、自宅でも指揮の練習に励んだそうです。当日は今までの中で一番のパフォーマンスを見せてくれました。本当に感動しました。

このように、少しずつFさんの中に自信が出てきたのは、本人のひたむきな姿勢と、紛れもなく、日本語指導の先生のおかげです。本当にありがとうございました。今後もFさんが充実した学校生活を送っていただけるようにサポートをし続けていきたいと思っています。



今年度の日本語訪問・補充指導について



済美教育センター国際理解教育担当

今年度も日本語訪問・補充指導を進めるにあたり、新型コロナウイルス感染防止対策に御理解と御協力をいただきましてありがとうございました。また、今年度で35回目となりました「国際交流の集い」が各校の校長先生、副校長先生、担任の先生方に多大な御協力をいただきながら無事に開催されましたことにも感謝申し上げます。

令和4年度 訪問指導人数 学年別内訳

出身国 滞在国等	合計	小学校						中学校		
		1	2	3	4	5	6	1	2	3
ネパール	33	3	4	3	4	3	2	7	5	2
中国	7	2	2	2				1		
アメリカ	6	1	2	1	2					
インドネシア	3		1			1		1		
フィリピン	2		1					1		
ブラジル	2		1						1	
モンゴル	2	1			1					
イタリア	1	1								
イラン	1				1					
インド	1						1			
ウクライナ	1	1								
韓国	1	1							1	
タイ	1								1	
バングラデッシュ	1	1								
ミャンマー	1								1	
日本	2									
合計	65	2								

令和5年1月10日現在

右下のグラフは「過去5年間の訪問・補充指導人数の推移」です。今年度は過去5年間の指導人数では最多となりました。また、出身国や滞在国内も

令和4年度 補充指導人数 学年別内訳

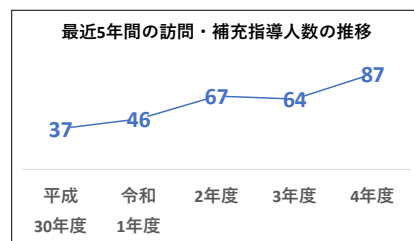
出身国 滞在国内等	合計	小学校						中学校		
		1	2	3	4	5	6	1	2	3
ネパール	14		1	1	2	2	1	3	3	1
中国	2			1						1
アメリカ	1			1						
インドネシア	1		1							
イラン	1					1				
フィリピン	1			1						
台湾	1			1						
日本	1									
合計	22	1								

令和5年1月10日現在

※補充指導には訪問指導を終えた
児童・生徒も含まれます。

多様化してきています。指導者数が追いつかず、各学校の指導要請に対して待機していただくこともありました。

私たちは、今後も課題を解決しながら帰国・外国人児童生徒に寄り添った指導を心がけて日本語指導に努めて参ります。



令和5年1月10日現在